

行政視察報告

令和5年7月4日（火）～7月5日（水）

総務文教委員会

視察日時・視察先

■日時 令和5年7月4日(火) 15:30~18:00

■視察先 京都市立洛友中学校(京都府京都市)

■日時 令和5年7月5日(水) 10:00~11:30

■視察先 上牧町役場、フリースクール「Smile Farm かんまき」
(奈良県北葛城郡上牧町)

参加者

職名	氏名
総務文教委員会 委員長	永見 利久
総務文教委員会 副委員長	三浦 大紀
総務文教委員会 委員	肥後 孝俊
総務文教委員会 委員	大谷 学
総務文教委員会 委員	芦谷 英夫
総務文教委員会 委員	佐々木 豊治
総務文教委員会 委員	西田 清久

1、視察目的

浜田市における課題の解決の参考とするため、京都府及び奈良県内の自治体で実施される特徴的な事業及び施設（不登校特例校、公営フリースクール）について調査し、今後の取組に生かす。



2、視察先一覧

(1) 京都市立洛友中学校

@京都府京都市下京区

【選定理由】

公立の不登校児童生徒特例校14校の中で、夜間部を設置する中学校。開校に至った経緯、教育環境や内容、昼間部・夜間部の世代や国籍を超えて学び合う教育環境が参考になると考えたため。



(2) Smile Farm かんまき

@奈良県北葛城郡上牧町

【選定理由】

不登校児童生徒に寄り添う安心な居場所として、令和4年9月にフリースクールを開設した行政の体制や施設などを参考とするため。



3、視察報告

(1) 京都市立洛友中学校

【視察先の概要】

- 二部学級（夜間部）と不登校特例校（昼間部）を併設する中学校として開校。
- 特例校は独自に教育課程を編成可能。洛友中は常勤教員10名。昼間部と夜間部を分担し担当。
- 不登校児童生徒を受け入れる「不登校特例校」は、2023年4月で全国24校。国は全都道府県への設置を目指している。
- 教育機会確保法（H29年施行）に基づく国の基本方針では、不登校児童生徒を対象とする特別の教育課程を編成して教育をする学校（特例校）の設置を促進することが示されている。



* 音楽の授業の様子

【ポイント】

- 昼間部と夜間部の良さを生かし、世代や国籍を超えてふれあい学び合う取り組み・工夫がされている。
- 担任制度は学年をまたぐ。
- 各種行事や合同授業・交流学习をはじめ、積極的な地域との交流活動が行われている。
- 生徒によって事情が異なるため、相性を考えて相談しながら担任を決めている。
- 学校に出席しない児童生徒に対し学びを継続して提供できるかが課題。一人に1台パソコンを提供しているので、ポケットWi-Fiの貸し出しも行い授業の様子を配信。
- フリースクールと連携し家庭訪問も行う。



* 校内に設置された進路情報コーナー

3、視察報告

(1) Smile Farm かんまき

【視察先の概要】

- 学校復帰や社会的自立支援を目的に令和4年9月に町が設立。
- 令和5年度予算は700万円。大半が人件費。
- 遊休状態であった旧JA出張所として使われていた建物を改修。
- 町内の不登校児童生徒は約30人。当該施設には小学生2人、中学生5人の計7人が在籍。残る児童生徒についても支援の必要性を認識。
- 原則利用料なし。
- 小学校低学年生の基礎学力や規範意識向上のため、毎週水曜日開校の「まきっ子塾」をH28年度から実施、60人が学ぶ。元教員、大学生など60人のスタッフで運営。
- 令和5年3月、学校の安全な教育環境認証制度として、奈良県で初めて上牧町立の小中学校2校がSPS（セーフティプロモーションスクール）に認証された。

【ポイント】

- まちづくりのNPO法人が運営（官民連携）。教員免許や認定心理士の資格を持つスタッフを置き運営。
- 決まったプログラムはなく利用者の希望に沿うようサポート。
- 地域力（場所や建物）、財力（財源）、人間力（専門知識やスタッフの力）の3つの力が設置・運営に必要と教育長。
- 保護者の「子どもの活躍への期待や将来への思い」をどう受け止め応えるかも大事。



* Smile Farm かんまきの外観（パンフレットより）



* 当該施設の内観（アイランドキッチンの設置）

4、考察

～ 全体を通じて ～

- 今回視察した2つの施設について、それぞれが立地する自治体の規模を含めた状況は浜田市と同じではないが、施設に通う児童・生徒の様子からも「居場所」の必要性は十分に理解できるものであった。
- 施設の事業状況を通じて感じた「個々を尊重するサポート」、「互いを知り、認め合う環境」、「社会との接点づくりとしての居場所」といった視点の有無が、居場所の居心地に大きく関わることはもちろんのこと、多様で適切な学習活動の提供においても重要だと考えられる。

4、考察

～ 全体を通じて ～

- 各地で様々な形で運営されているフリースクールなど、今回の視察先を含めた他の施設を参考にしながら、浜田市における「山びこ学級」や「青少年サポートセンター」の位置付けや機能、活動内容を改めて評価するとともに、立地や体制、官民連携の可能性などの項目について検討し、当該施設の機能の維持・充実や別事業の新設の必要性など、あるべき像を今後議論することとした。
- 増加傾向にある浜田市の不登校児童生徒へのサポート環境の充実に向けて、引き続き活動していく。

(了)

総務文教委員会